

事業コード	02030186	政策コード	02	政策名	融合と成長の新農林水産ビジネス創出
事業名	めざせ全共チャンピオンシップ事業	施策コード	03	施策名	需要創造力と訴求力を兼ね備えた産地づくり
		指標コード	01	施策目標(指標)名	県オリジナル品種を主としたブランド品目の生産拡大
部局名	農林水産部	課室名	畜産振興課	班名	生産振興班
				(tel)	1807
				担当課長名	土田正広
				担当者名	藤田歩

評価対象事業(計画)の内容 事業年度 平成25年度 ~ 平成29年度

1. 事業立案の背景(施策目標の達成のために今なぜこの事業が必要なのか)
 長崎全共では、県有種雄牛「義平福」が全国2位の荣誉に輝き、全国の注目を集めるとともに、その能力の高さが実証されたことから、肉用牛農家や畜産関係団体、マスコミ、県民から大きな関心が向けられるなど、これまででない盛り上がりを見せ、5年後の宮城全共でも県有種雄牛の活躍が期待されている。こうした盛り上がりを持続させ、一層の上位入賞を目指して、本県の肉用牛産地としての全国評価の向上を図るためには、母牛である雌牛群の高能力化や、飼養・出品技術の向上が不可欠である。

3. 事業目的(どういう状態にしたいのか)
 県有種雄牛や地域の基礎雌牛群の効率的な改良を進めるとともに、生産者と一丸となって次期全共に向けた肥育・繁殖対策を強化する。
 (重点施策推進方針との関係) ○重点事業として要望 ●その他事業として要望

2. 住民ニーズの状況
①ニーズを把握した対象
 受益者 一般県民 (時期: H24年11月)
②ニーズの把握の方法
 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット
 その他の手法 (具体的に 家畜市場での生産者から聞き取り、各種会議等)
③ニーズの具体的内容
 ①24ヶ月齢肥育技術のレベルアップが必要である。 ②肉質の生体診断技術のレベルアップが必要である。 ③母牛である雌牛の高位平準化が必要である。

4. 目的達成のための方法
①事業の実施主体 秋田県
②事業の対象者・団体 生産者、公益社団法人全国和牛登録協会秋田県支部
③達成のための手段
 ①24ヶ月肥育の試験肥育 ②24ヶ月肥育マニュアル策定 ③高能力雌牛からの採卵・移植(受精卵の保管、計画移植)
④比較した代替手段及び選択した手段の有効性
 秋田牛全国チャンピオン獲得事業は24年度で終了する。その他、類似事業はない。さらに、全共での肥育の審査対象は、一般の肥育期間より6ヶ月も短い24ヶ月齢の肥育牛であることから、通常より高度な技術が要求される。このため、24ヶ月齢での試験肥育、当試験データによるマニュアル作成は有効である。

◎把握していない場合の理由及び今後の方針

①理由	
②今後の方針	

5. 事業の全体計画及び財源 単位(千円)

順位	事業内訳	左の説明	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	全体(最終)計画
02	肉牛の部チャンピオンシップ事業	24ヶ月齢肥育技術の確立に向け、肥育試験を行うとともに、マニュアルを作成する。また、出品牛を作出するため、県内最高水準の雌と優秀な種雄牛との受精卵を確保する。	4,122	6,642	3,892	4,692	5,064		24,412
財源内訳		左の説明	4,122	6,642	3,892	4,692	5,064		24,412
国庫補助金									
県債									
その他		秋田県農林漁業振興臨時対策基金	4,122	6,642	3,892				
一般財源			0	0	0	4,692	5,064		24,412

6. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

事業の期待される成果 平成29年度に開催される宮城全共において、24年度に開催された長崎全共を上回る成績を獲得することが期待できる。

指標名	あきた総合家畜市場における「義平福」の取引頭数								指標の種類
指標式	「義平福」の取引頭数(実頭数)								●成果指標 ○業績指標
①年度別の目標値(見込まれる成果による指標)									
指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	最終年度	
目標a			300	500	800	1,000	1,200	1200	
実績b	77		②データ等の出典						
東北	あきた総合家畜市場成績								
全国									
③把握する時期 ● 当該年度中 03月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月									

指標名									指標の種類
指標式									○成果指標 ○業績指標
①年度別の目標値(見込まれる成果による指標)									
指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	最終年度	
目標a									
実績b			②データ等の出典						
東北									
全国									
③把握する時期 ○ 当該年度中 月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月									

◎指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することが出来ない理由

②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

事業の必要性

現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性
 本県の肉用牛産地としての全国評価の向上を図るためには、母牛である雌牛群の高能力化や、飼養・出品技術の向上が不可欠であり、24ヶ月齢肥育技術の確立に向けた試験肥育の実施や肥育マニュアルの作成、肉質生体診断技術向上に向けた研修、高能力雌牛からの採卵移植による出品候補牛の作出や、県有種雄牛の普及啓発等が必要である。

住民ニーズに照らした事業の必要性
 全共へ出品するには、3～4年前から出品牛の父母を選定し、開催日に合わせて計画的に出品牛を生産する必要がある。これは、通常の生産体系と大きく異なることから、出品候補牛を生産者が作出すると経済的なリスクが伴うため、県の支援が要望されている。

事業の県関与の必要性
 法令・条例上の義務 内部管理事務 県でなければ実施できないもの
 民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの

県有種雄牛に係る事業であることと、県が有している受精卵移植技術を活用して出品候補牛づくりになることから、県でなくては実施できない。

政策評価委員会意見		重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定
		○重点事業 ○その他